

第5回浦和野田線の整備に関する意見交換会

【日 時】 令和6年11月1日（金） 14：30～16：40

【場 所】 荻島地区センター・公民館 会議室A

【参加者】 北越谷一丁目自治会、北越谷二丁目東自治会、北越谷四丁目自治会、北越谷五丁目自治会、堤根自治会、さしきだ自治会、文教大学、元荒川の自然を守る会、越谷警察署、越谷市道路建設課・学務課、埼玉県総合治水事務所、埼玉県越谷県土整備事務所（計20名）

【傍聴者】 なし

【議 事】

- (1) 検討状況に関する報告
 - ア 出津橋周辺の円滑な横断手法
 - イ 生活環境対策のうち騒音対策について
- (2) 第2回オープンハウス型説明会開催のお知らせ
- (3) 今後のスケジュール

【主な意見交換の概要】 （○：構成員、●：構成員（越谷市）▶：事務局）

- オープンハウス型説明会では、こういった内容のアンケートを取るのか。例えば、道路横断手法の検討案でいけば、どの案がいいかなどのアンケートを取るのか。
 - ▶ アンケートの内容は検討中である。

- 11ページの4案について、2橋あることで災害発生時や橋の工事中においてももう1橋が通行できるメリットがあると思う。関係機関との協議が難しいと記載されているが、実現に向けて検討を進めることはできないのか。
 - ▶ まず、県として今考えていることは、検討案ごとの整備イメージ図やメリット・デメリットを説明会で提示し、そこで地域の方々から意見をいただければと考えている。実現できるかどうかの議論は、意見をいただいた次のステップと考えている。
 - 次のステップにおける議論では、元荒川の横断場所が増えて生活しやすいというメリットがある一方で、橋の維持管理に費用を要するというデメリットも含めて考えていく必要がある。

現時点で具体的な検討を進める段階ではないと認識しているが、今後出津橋の構造について検討する段階になったら、地域の方々の意見を伺い、地元の合意形成を図っていければと考えている。

- 11ページの4案について、2橋架けると維持管理の費用が増加するというのであれば、うち1橋は今の出津橋を仮橋のまま残すことで、維持管理費用を安くできたりは

しないのか。

- そもそも仮橋は本橋ができるまでの暫定的なものであり、それを本橋の代わりとして長期間使用し続けることは難しいと考える。
- 検討案は車いすの通行も考慮したものとしているが、実際にはどの程度通行しているのか。
- 夕方の時間帯に、シニアカーや車いすに乗った高齢者をよく見かける。
- 事務局からの補足事項。9ページの3案については、道路交通を管理する上で横断歩道との距離が近いことから信号灯器を誤認する恐れがあるため、検討案として示しているが、実際には交通安全上整備することが難しいと考えている。
また、同様の理由から、他の検討案においては横断歩道を追加していない。
- 今の環境を気に入って多くの人が北越谷地区に住んだが、通らないと言われていた道路が住宅街の中を通る計画に変更された。地域の人々が受ける影響を考えて欲しい。
- 現在の位置に浦和野田線が計画されたことによる地域の方々への影響は、県として十分認識して整備を進めていく必要があると考えている。
- 信号灯器の誤認をする可能性があるから実現が難しいなどそれぞれの検討案に事情があることは分かるが、これまでの経緯を踏まえて特例で認めてもらえたりしないのか。
- 信号灯器の誤認に関して言えば、法律上の規制というよりは、連続して信号灯器が並ぶと誤認のおそれがあるため、設置基準があるということ。
すなわち、横断する人々をできるだけ安全に渡らせるためには、その場所には横断歩道や信号を設置しない方がいいというのが行政側の考え方である。